

川越ロータリークラブ 会報 No.36

2026年4月7日 第3564回例会 会場：川越プリンスホテル5階

会員数：96名 免除出席者：9名 正会員出席者：44名 出席者：53名 出席率：63.8%

プログラム

点鐘（12：30）／国家：君が代・ロータリー
ソング（第1例会：奉仕の理想）／ビジター・
お客様紹介／卓話講師紹介／会長の時間／
幹事報告／委員長報告／ニコニコボックス
／出席報告／卓話／点鐘（13：30）〈司会：
山崎SAA〉

《卓話講師紹介》

山口智孝様（川越オペラ運営委員会副会長）

会長の時間

2025-26年度 会長 吉澤 徳安

理事会報告

会員退会の件：転勤で5名 承認

新会員推薦について：3名の転勤後任と1名の新たな入会希望があり、了承。ご案内郵送します。

プロトコールについて：クラブのドレスコードについて、前年度・本年度・次年度の幹事が集まり意識調査アンケート（約15問）を実施することが決定。男性・女性会員の選択肢の違いにも配慮し、例会後に女性会員の意見を聞き、最終項目まとめて全会員に配布予定。

埼玉県緑の羽根募金運動：赤い羽根募金と同様に、埼玉県緑の羽根募金運動への参加が決定。個人で募金し、クラブでまとめて寄付する方式。詳細は幹事から後日案内予定。環境問題への関心や若い世代の参加促進も意識されています。

グローバル補助金・国際貢献：野溝年度、モンゴルへの緊急車両寄贈プロジェクトについて、グローバル補助金を活用し現地調査や費用見積もりが進行中。費用負担については今後ディスカッション予定。前回・前々回の理事会でも議論されており、今後も継続的に検討される見込み。

クラブ周年事業・収支計画：大宮ロータリークラブ70周年記念式典への参加案内。川越ロータリークラブも75周年を迎え、今後の周年事業の積

立や予算計画について議論。収支計画では、地区大会支援準備金や特別積立金から補助金を拠出。80周年に向けて800万～900万円のコストを見込むなど、長期的な財務戦略が課題。

《退会あいさつ》

吉岡 明寛会員：武蔵野銀行法人コンサルティング部に異動。広報委員会、出席推進委員として2年間ありがとうございました。昨年11月の地区大会の成功に向けて全員で一丸になれたことが心に残っております。



幹事報告

2025-26年度 幹事 高橋 哲彦

- ・配布物 会報、卓話資料
- ・4月のロータリーレート1\$=160円（3月156円）

委員長報告

野溝会長エレクト

- ①3/28 会長エレクトセミナー参加。RI 会長メッセージ、地区方針。
- ②新規米山奨学生の件（チョウカンカさん）5/12 例会で挨拶予定。

次週卓話担当（菊池プログラム委員長）

イニシエーションスピーチ：新井会員、井上会員

ニコニコボックス

●山口智孝様、本日はようこそ川越ロータリークラブの例会に。卓話よろしくお願い致します。＜会長、幹事＞●本日の卓話楽しみにしております。山口智孝様宜しく願い致します。＜菊池＞●本日の卓話、川越オペラ運営委員会山口智孝様よろしくお願い致します。オペラの取り組みの話楽しみにしています。＜神谷、川野邊、和田、高橋（徹）、小橋、小杉、西川、水村、齊藤（智）、藤井、新井、栗原、小林（勇）、中野（文）、戸口、鈴木（尚）、

長岡、野溝、石井>●今般の人事異動で大宮にある本部に行くことになりました。2年間ありがとうございました。<吉岡>●吉岡さんの新天地での活躍を願っております。お疲れ様でした！<誉田、荻原、的矢、小林（徹）、津田、五十嵐、山口（裕）、石井、鬼頭>●先日、コエトコ（旧川越織物市場）の案内版の除幕式が行われました。センスの良い案内板でした。<西澤、馬場（常）、小川、相原、小杉、西川、山田（哲）、荻原、小谷野、小高、栗原、中野（文）、野溝、石井>●川越からJリーグを目指す「COEDO KAWAEGOE F.C」のホーム開幕式が4月11日15時から坂戸市のグランドで開催されます。当日は明治安田サンクスマッチとなります。是非応援よろしくお願ひします。<鈴木（崇）、川野邊>
合計52,000円

卓話 担当：プログラム委員会

講師：山口智孝川越オペラ運営委員会副会長

「川越市民オペラ」プロジェクトの背景・目的：川越市民オペラは、地域の文化創生と市民参加型の舞台芸術を目指して発足。副会長の私が中心となり、地元の合唱団・オーケストラ・プロの音楽家・指揮者・舞台スタッフが一体となって運営してきました。市民が主役となる舞台を作ることで、音楽・芸術への関心を高め、地域の誇りやコミュニティの絆を強化することが目的です。プロジェクトは単なる音楽イベントではなく、地域企業・行政・団体・住民が協力し合う「循環型市民環境」の構築を目指しています。

準備・運営体制：準備期間は約20か月。2024年12月から始まり、練習回数は80回以上。公民館や市内施設を活用し、合唱・オーケストラ・舞台演出の練習を重ねてきました。市民合唱団はオーケストラ含め約150名。オーディションを経て若手音楽家も参加し、プロのソリスト・指揮者と協働し、舞台全体を市民主体で作りに上げてきました。舞台設営・衣装・美術・字幕表示など、プロの舞台スタッフと市民ボランティアが協力し、質の高い舞台を目指しています。

公演内容・演出の特徴：今回の公演は「カルメン」。オペラの代表的な作品で、歌・演劇・オーケストラ・衣装・踊りなど多様な芸術が融合しています。初めての方でも楽しめるよう、字幕表示や紙芝居によるストーリー紹介、楽器体験イベントなどを実施しております。前回公演（こうもり）では地元の祭

り文化とコラボレーションし、地域色を強く打ち出した演出を行いました。今回も地域の伝統や文化を舞台に取り入れる工夫がなされています。着物での鑑賞や、オペラ後の食事会など、地域文化と融合した新しい体験も提案中です。鑑賞後の交流イベントやお土産企画も検討中です。



市民参加・多世代交流：市民合唱団・オーケストラは幅広い年齢層が参加。子どもや未経験者にも門戸を開き、楽器体験や紙芝居イベントなどを通じて、音楽や舞台芸術への関心を高める取り組みを展開。市民参加型の舞台は、参加者のスキル向上やコミュニティ形成、地域の誇り醸成につながっております。地域の学校・団体とも連携し、教育的な側面や多世代交流の場としても機能しています。

地域連携・企業協賛・クラウドファンディング（CF）：地域企業・団体・行政と連携し、CSRやCSVの観点から協賛を募集中です。CFも活用し、地域ぐるみでプロジェクトを支える体制を構築しております。協賛企業はチラシや広報物に掲載され、地域のPRやネットワーク拡大にも寄与。協賛金は舞台設営・人件費・衣装・美術などの費用に充てられます。市内各所で広報イベントやタイアップ企画を実施し、オペラの魅力や意義を広く発信しています。商業施設、イベントスペースでPR活動を展開しています。CFでは、特別鑑賞券や食事会参加権、着物体験など多様なリターンを用意し、地域住民や企業の参加を促進しています。

財務課題・運営上の工夫：オペラ開催には約1,000万円の費用がかかり、主な支出は人件費・舞台設営費・衣装・美術などです。近年は人件費高騰の影響も大きいです。収入源はチケット販売・協賛金・クラウドファンディングが中心です。収入不足の場合は舞台規模縮小も検討せざるを得ないが、質の維持を最優先に努力しています。チケットは4月13日から販売開始します。1階席4,000円、2・3階席3,500円（自由席）。人気席は早期完売が予想されるため、早めの購入を推奨しています。

今後の展望・参加呼びかけ：「川越の誇りとなる活動を継続したい」。オペラを通じて地域の文化創生やコミュニティ強化を目指し、今後も多様な連携や新しい取り組みを模索していきたい。市民オペラの活動は、地域の文化・教育・経済・コミュニティ形成に多面的な効果をもたらすと期待されています。